

§ 4 -1 . 活用に向けた方針と施策

4 -1 . 基本理念

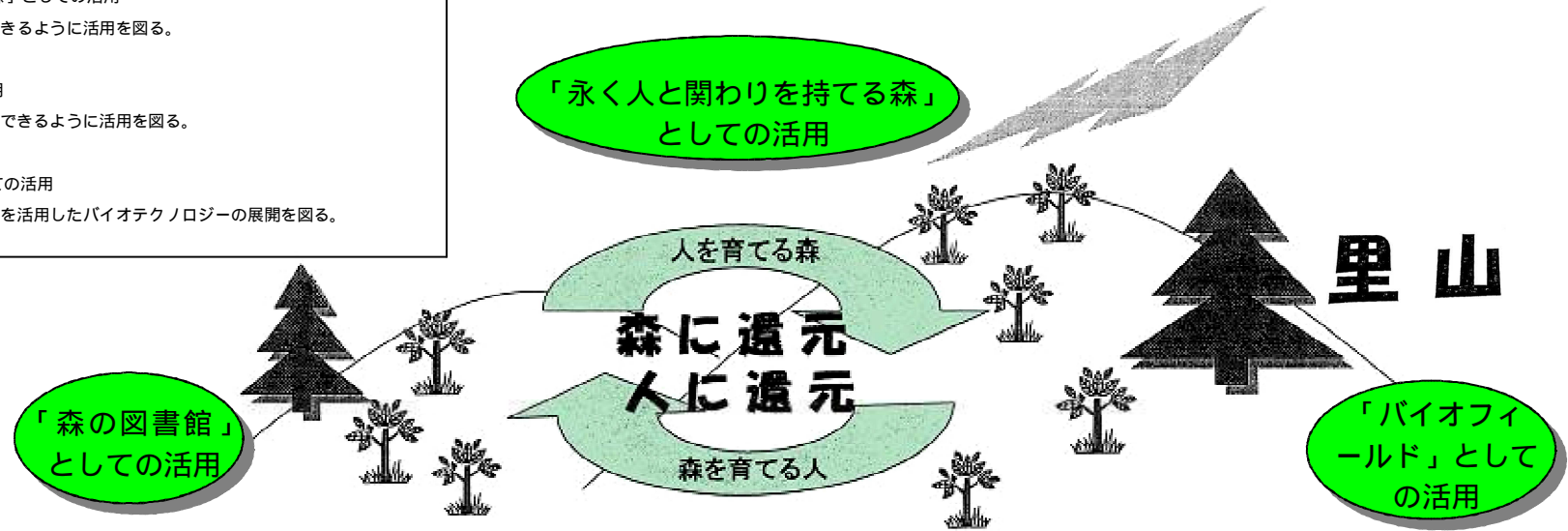
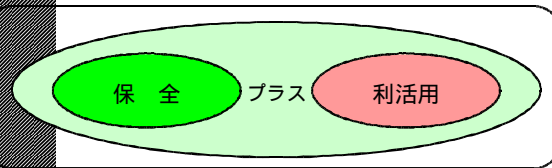
基本理念としては、「永く人と関わりを持てる森」ということを前提として、現在の荒れた森林生態を再び人の手を入れることにより、**創としての環境を復興・活用することを目指す**が、**常に促進するだけでなく積極的に人の参加による活用を図る**ことを重視し、次に取組活用を図る。

「永く人と関わりを持てる森」としての活用
人が森にその恩恵を還元できるように活用を図る。

「森の図書館」としての活用
人が森からその恩恵を享受できるように活用を図る。

「バイオフィールド」としての活用
多様な遺伝子資源（里山）を活用したバイオテクノロジーの展開を図る。

基本理念の概念



1. 「永く人と係わりを持てる森」としての活用
～人が森にその恩恵を還元できるように活用を図る～

「人が育てる森」の整備
里山再生整備
拠点施設の連携
里山の魅力を体験できる整備
里山内公園の整備

「森を育てる人」の育成
地域との連携
NPO活動の支援
国際ネットワークの形成
森の動きについての啓発活動

2. 「森の図書館」としての活用
～人が森からその恩恵を享受できるように活用を図る～

「情報」の整備
里山の資源調査
里山情報の発信

「情報ネットワーク」の構築
広域連携

3. 「バイオフィールド」としての活用
～多様な遺伝子資源(里山)を活用したバイオテクノロジーの展開を図る。

「健康」への応用
健康機能実証フィールドの整備

環境への応用
バイオリサーチパークによる産・学・官の連携の強化

4-2. ゾーニング及び拠点の設定、拠点をアクセスする既存遊歩道の改善

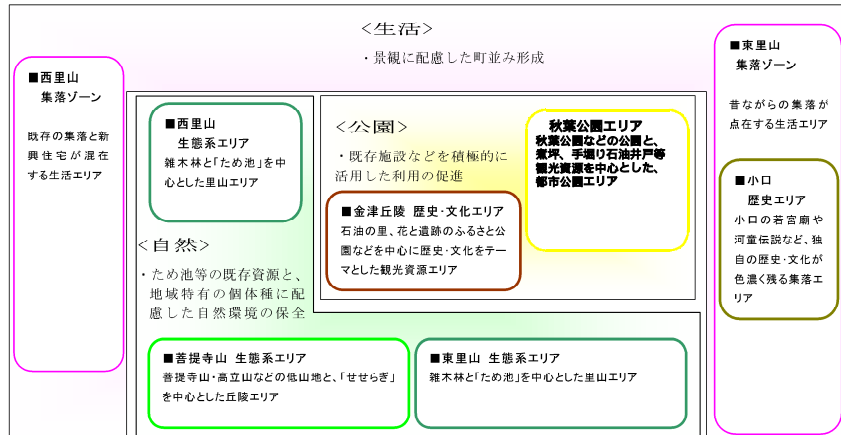


図4-2-1 にいつ丘陵エリア区分模式図

表4-2-1 拠点施設

拠点施設	位置づけ
秋葉公園 特性：総合公園としての機能を有するもので、秋葉山頂からの展望をはじめ、庭園、スポーツ施設、キャンプ場、動物広場等休息、観賞、散策、遊戯、運動等、多種多様な施設が分布している。 キーワード ・総合的な利用	総合レクリエーションとしての場 身近な町内会・地域が活用する地域コミュニケーション形成の場
花と遺跡のふるさと公園 特性：県立植物園や新津フラワーランド、県埋蔵文化財センター、史跡古津八幡山遺跡、美術館を核とするもので、秋葉公園施設と比べ、専門性に特化している。 キーワード ・熱帯植物、花 ・遺跡 ・美術	主として、植物、史跡、アート等に関する教養・学識、情報発信等を高める体験・学習・交流の場
石油の里公園 特性：石油文化遺産、石油の世界館、観光物産館、「石油王」といわれた中野貫一庭園・屋敷・金津層のオイルサンドを核とする。 キーワード ・石油 ・豪邸 ・観光	主として、日本の近代産業の原動力となった石油等歴史・文化に関する教養・学識、情報発信等を高める体験・学習の場 これら資源をいかした、にいつ丘陵の観光・地域振興・交流拠点
新潟バイオリサーチパーク 特性：新潟薬科大学を核とするもので、「大学キャンパスゾーン」「研究推進ゾーン」「バイオ関連企業集積ゾーン」「公設研究施設集積ゾーン」「国際交流ゾーン」「地域共同利用ゾーン」から構成されるバイオリサーチパークで、専門性に特化している。 キーワード ・大学 ・バイオテクノロジー	主として、バイオに関する産・学・官の連携による研究開発・学術の拠点 大学開放講座による市民との交流の場

現在、秋葉公園～石油の里～菩提寺山をアクセスする木れ陽の遊歩道がある。ハイキング散策・探勝等木れ陽の遊歩道を利用する人が多く、活用促進を図るため次のことを考える。

改善にあたり、次の視点から捉えとる。多様な散策が楽しめるように、「散策ネットワーク」の充実を図る。事故等が起きないように、「安全機能」の確保を図る。利用する人の中には初めて散策する人もいる。よって、適切に案内する「誘導機能」が求められる。新しい施設の導入に伴い、その都度案内誘導の見直しを行う。年配の方や子供の利用もあり、適切な箇所に「休憩機能」の充実を図る。同時に、より快適性を高めるために、「観賞機能」を付加する。

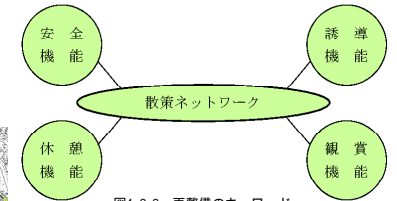


図4-2-2 再整備のキーワード

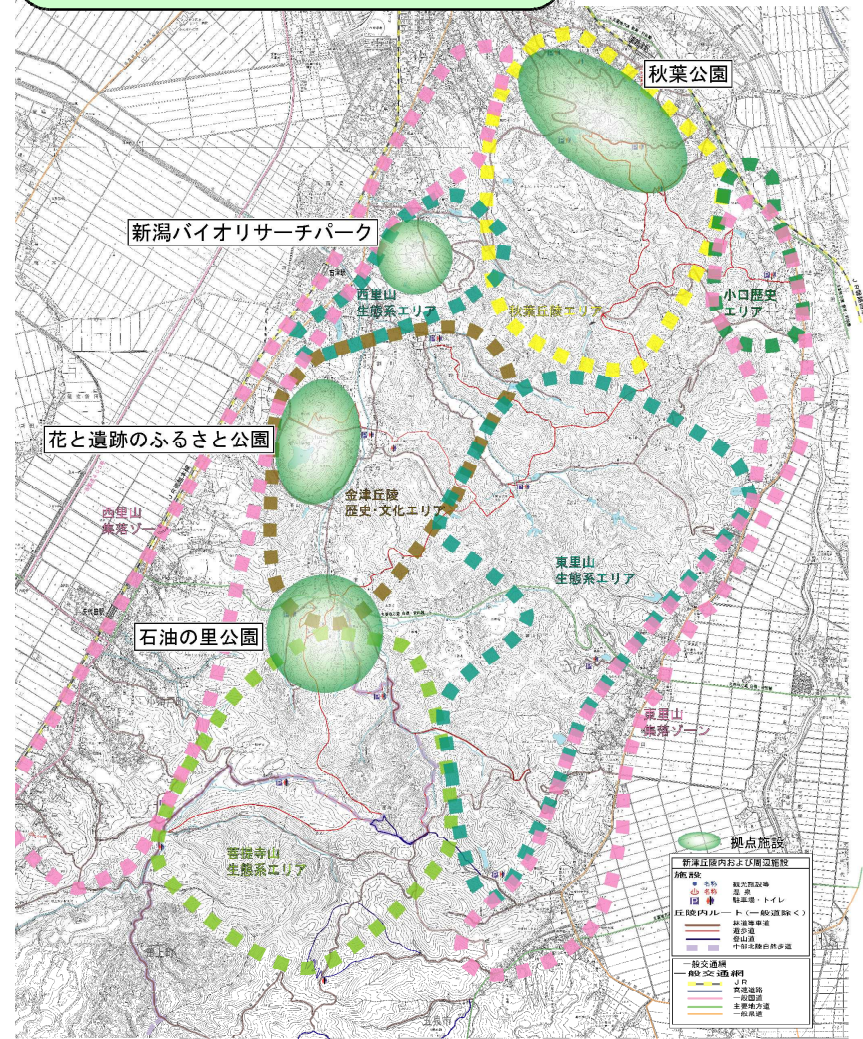


図4-2-3 ゾーニングと拠点

4 -3 . 活用方針と施策

基本理念にもとづく活用方針

1. 「永く人と関わりを持てる森」としての活用
 ～ 人が森にその恩恵を還元できるように活用を図る ～

「人を育てる森」の整備

里山再生整備(里山の自然環境で損なわれた生態系等の再生整備)
 過去の良好な状態と現在の状態を調査比較して、再生整備計画に基づき再生を図る。
 ・人の手が入っていたときの里山を復元し、里山の機能回復を図るとともに、「親林」のための環境整備を進める。

拠点施設の整備
 里山内やその周辺に点在する各種施設を有機的に結ぶネットワークづくりを行うことで、里山の魅力を最大限に発揮させる。
 ・既存施設の機能や必要性を検討し、内部を改装してピジターセンターを開設する。
 ・公共交通機関を使ったルート案内や各施設間での情報提供システムを確立する。

里山の魅力を体験できる整備
 里山に入るきっかけづくりとして、各種体験講習会(親林プログラム)等の充実と合わせたフィールドの整備を図る。
 ・里山の魅力に触れることができる環境を整えることにより、自然の大切さを感じてもらう。
 ・里山を介しての人とのふれあい、家族とのふれあいの場を提供する。
 ・里山の自然の恵みを体験することで心身ともにリフレッシュし、健康へとつながる場づくり。

既存調査資料の整理と補足調査の実施

用地取得

自然エリアの整備

水辺エリアの整備

景観エリアの整備

拠点施設の整備

サインの整備

体験施設の整備

保健保安林制度の活用

社会・経済情勢の変化を勘案し、丘陵地の用地取得を進める。

NPO法人など、団体やボランティアと連携し、年次計画をたて間伐や枝打ち、下草刈り等を行う。
NPO法人など、団体やボランティアと連携し、遊歩道のパトロールと点検・修繕を行う。

既存のコンクリート張り等の水路を自然型水路に改修する。池周辺に野鳥観察のためのスペースを設ける。
池沼の護岸を自然型に改修する。上記の改修等により、水辺で自然と親しむことのできる部分を確保する。
地域に存在していた植物を水辺に植栽する。ホタルが生息できる環境づくりを行う。
池への進入路や駐車場を整備する。(将来的には、全域に展開していく)
池を防災池としても活用する。

用地を取得する。もみじ山としての整備する。(植樹祭等を実施し、もみじを植林する)
裸地の土壌改良を行う。間伐材等のチップ化などの資源再生をするための企業(施設)の誘致、または、在来種の植林を行う。間伐材等を一時貯留し処理するための、ストックヤードの設置の検討をする。

・里山の総合案内所、展示室、調査資料室、レンジャー待機所、里山工芸品展示(炭焼アート等)

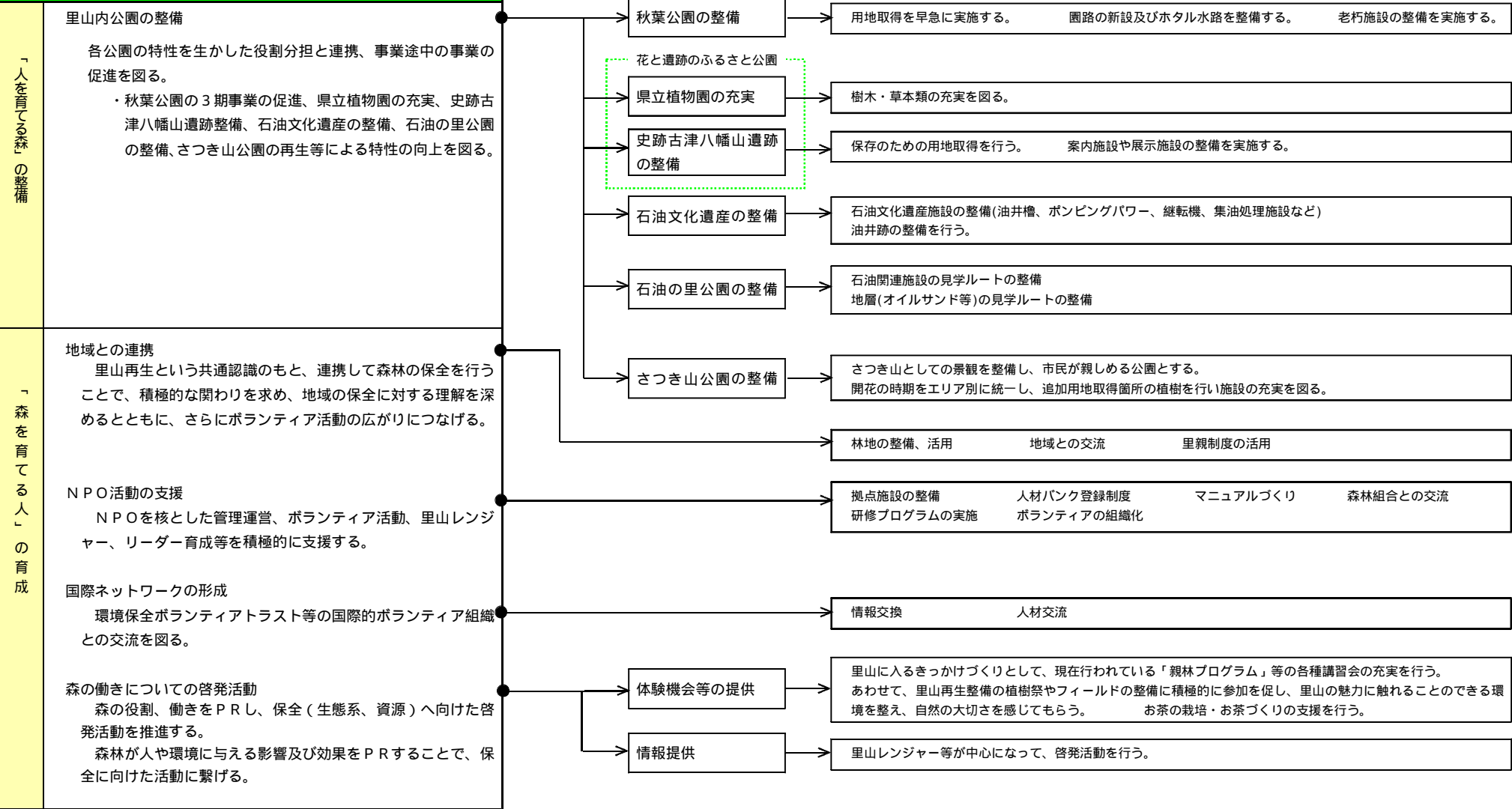
点在する施設の総合案内板を主要な駅や施設に設置し、全体が見える案内看板を設置する。
里山の持つ癒しと健康志向に一致した、モデルコースを設定し、総合案内パンフ(コース図を含む)を配布する。
・新津駅、古津駅、東新津駅、矢代田駅への里山案内看板の設置 ・広域ルート図の作成
・モデルコースの設定と登山口や主要施設への広域ルート図の配布を行う。

「花と遺跡のふるさと公園」から「石油の里公園」への「お茶山」の遊歩道の整備を行うことで、両公園の一体化を図る。菩提寺山の遊歩道において「一夜堀」から山頂への「へそ清水」の遊歩道を整備する。
菩提寺山山頂上付近と「石油の里公園」交流の森にバイオトイレを設置し、利用者の利便を図る。
既存遊歩道の再整備を行う。炭焼き施設等を活用した間伐材などの炭焼き体験施設整備をする。

保安林制度を活用し、保全と整備を一体的に行う。

基本理念にもとづく活用方針

1. 「永く人と関わりを持てる森」としての活用 ～ 人が森にその恩恵を還元できるように活用を図る ～



基本理念にもとづく活用方針

2. 「森の図書館」としての活用 ～ 人が森からその恩恵を享受できるように活用を図る ～

「情報」の整備	<p>里山の資源調査 生態系、歴史遺産、森の恵み、伝統・伝承・民族等の多様な資源を調査・整理する。 ・里山の持つ資源の明確化</p> <p>里山情報の発信 生態系、歴史遺産、森の恵み、伝統・伝承・民族等の里山に関する情報の提供を行う。 ・里山の資源情報を総合的に提供し、里山への知識を深めてもらうとともに、里山の自然環境の特性である「共生と循環の仕組み」の理解普及につとめる。 ・里山と人との関わりを、昔、今、未来の時系列で情報発信し、次代に継承すべき里山の姿をひとり一人が自らの財産として考える機会を提供する。</p>
「情報のネットワーク」の構築	<p>広域連携 新潟には海や湖沼、河川、里山が身近なところにあることから、自然に触れる機会が多い。 そこで佐潟、福島潟などを始めとした県内外の自然環境関連施設とのリアルタイムの情報交流を通じ、広域的な情報提供や情報収集を可能とし、広く自然や環境に対する知識を習得する機会を与える。 ・多種多様な自然のあり方を多方面から知る機会を得る。 ・多種多様な自然の地域性とつながりを知ることが出来る。</p>

調査、整理、保存 情報のデータベース化

データベースの提供 モデルの提供 観察と実証の場の提供(石油の里公園にある地層観察ルート等)
県立植物園において、里山の情報発信

情報端末の整備

3. 「バイオフィールド」としての活用 ～ 多様な遺伝子資源(里山)を活用したバイオテクノロジーの展開を図る ～

「健康」への応用	<p>健康機能の実証フィールドとしての活用 森林セラピーなど、森林の癒し効果の実証フィールド及びにいつ丘陵に自生している薬用植物の生育状況の調査・研究フィールドとして、遊歩道・森林・緑地の整備を実施する。</p>
「環境」への応用	<p>バイオリサーチパーク構想による産・学・官の連携の強化 バイオ技術による「バイオマス」「エネルギー」「環境」への応用を模索していくために「産・学・官」の連携を強化していく。</p>

バイオリサーチ
パーク内の整備

森林・緑地・遊歩道等の整備

産、官、学の連携 バイオマス事業の促進 講座の開催